

茅ヶ崎中央ロータリークラブ例会でのお話

2011. 2. 3.

皆様こんばんは。AMDA 鎌倉クラブの根津伶子でございます。今日はお招きにあずかりましてありがとうございます。また、皆様には昨年11月の、私共のチャリティーコンサートに大勢の方においでいただきまして、心より感謝申し上げます。

今日は私共 AMDA 鎌倉クラブができたわけ、そして発足後の活動状況などをお話させていただきます。

まず菅波茂 AMDA 代表と私との出会いは、遠く昭和40年に遡ります。年がわかってしましますが、私が岡山大学教育学部に入学し、邦楽部で箏を始めたのが昭和39年、菅波代表が1年後輩で医学部に入学し、やはり邦楽部で尺八を始められました。当時は学年が違いますし、そんなにお話をしたような記憶はございません。数十年後にこのようなかかわりを持つようになるろうとは思ってもみませんでした。彼は学生時代からインドなどを放浪し、仲間を集めて邦楽演奏キャラバン医学踏査隊と称して難民キャンプなどを訪ねて回っていたようです。(出発に先立ち、キャラバン隊が岡山市内でコンサートを行ないましたが、それには私も応援で出演した記憶があります。) その時の経験が淵源となり、彼は、1984年にAMDAを設立しました。当時は「アジア医師連絡協議会」といっておりました。

私はといえば、卒業してから教師を2年務めた後、箏曲の方に進みまして、お箏を教えたり演奏したりしておりました。そのような中、菅波代表がまだ岡山市内の榊原病院(心臓外科で世界的に有名)で勤務医をしていた頃、私のお箏の先生から「菅波さんが榊原病院内で邦楽部を創るので誰か指導に来て欲しいとのことだけど貴女が行きますか？」と連絡をいただきました。私はお受けし、何年か教えに行きました。そこから菅波代表とかかわるようになったのです。

その後私は平成4年に鎌倉へ来たのですが、しばらくは岡山大学の邦楽部の講師をしていたこともあり、岡山での活動は継続しておりました。

さて、AMDA 鎌倉クラブを立ち上げることになったきっかけですが、平成10年5月、岡山の邦楽の仲間とチャリティーコンサートを行い、収益金寄贈のため仲間と一緒にAMDA本部を訪問しました。その時菅波代表から、「11月にネパール子供病院がオープンするので邦楽で参加しませんか。」と誘われました。AMDA 鎌倉クラブの誕生は、まさにそのひと言から始まったのです。

丁度そのころ、岡山放送が開局30周年記念番組としてAMDAを継続して取材しておりました。ネパール子供

病院の開所式の模様も収録されて、吉永小百合のナレーションで全国放映されるというのです。「それなら行こう！」ということになり、私達は7名の邦楽アンサンブルを組んでネパールスタディーツアーに加わりました。子供病院の開所式の模様は、神田うのさんのリポーター、吉永小百合さんのナレーションで日本国内で全国放映されました。

ネパールで目にした光景に、私は少なからぬ衝撃を受けました。汚れた服に裸足で物乞いをする子供たち、貧しさ故にインドに売られ、エイズに罹ってネパールに戻されたものの引き取り手もなく、ただ施設で死と隣り合わせで暮らす少女達・・・それらを目の当たりにして、何か自分にできることはないか、と考えるようになっていました。豊かな日本にいと、聞いただけでは実感がありませんが、世界人口は70億人を目指して急増中で、ほぼその半数は生活費が日に2ドル以内という極貧状態で、きれいな水が手に入らない劣悪な衛生環境下に置かれている、といわれています。そのようなことにも関心が向くようになっていました。

おりしも、ネパールから帰国後まもなく、菅波代表から「これから各地にクラブを創って行って、AMDAを応援してもらおうと考えている。すでに東京クラブができているが、鎌倉でも創ってくれないだろうか。」との要請がありました。

最初は「私にそんな大変なことができるわけがない。」と思いましたが、私は当時漢詩を朗詠する会と組んで演奏をしておりましたので、その会長さんにご相談したところ会員の方をはじめ、協力してくださる方が次々と現れ、驚くほどスムーズに運びました。この時、本当に有り難かったことは、元大学教授で顧問になってくださった方のアドバイスで、最初に組織と会則をきちんと決めてしまったことです。初代の代表は岡山大学医学部出身で、鎌倉で開業しているお医者さんをお願いし、理事5名、顧問1名、そして年間の会費を2000円と決め、平成11(1999)年3月1日スタートいたしました。

さて、スタートしたからには、活動しなければなりません。目的は二つです。一つ目はAMDAを宣揚し、その存在を広く皆様に知っていただくこと。二つ目は行事を行なって支援金を集め、AMDAのプロジェクトに寄付することです。しかし、具体的には何をしたらよいのか、また何ができるのか模索しました。そして行き着いたのはやはり私ができることはコンサートでした。コンサートを年間の最大イベントとして中心に置き、バザー、現地活動報告会、チャリティーお食事会、七福神巡りになどをこれまでに行なってまいりました。

現在の組織としては、広報委員会、コンサート委員会、バザー委員会、イベント委員会、そして事務局あり

ます。年に一度総会を開き、本部から来てもらって現地の活動報告等を行なってもらっています。

発足した翌年から、鎌倉クラブは AMDA ホンジュラスプロジェクトを支援しています。これは、発足の1年前の1998年、巨大なハリケーン「ミッチ」がホンジュラスを襲いました。死者が6000名以上にのぼり、20世紀最大の大惨事となりました。AMDA はすぐに緊急救援チームを派遣し、医療活動に携わりました。その後、1999年5月、ホンジュラスに事務所を開設、継続してエイズ撲滅などの保健衛生指導、自立支援活動などを行なっています。我が鎌倉クラブの発足がその年の3月ですので、ほぼ時を同じくしてホンジュラスプロジェクトが開始されたわけです。そういうタイミングだったので、鎌倉クラブはホンジュラスを支援してほしいと代表から要請されまして、以来ずっと継続してホンジュラスを支援しております。また同時にインドネシアやハイチの大地震など、突発的な災害にも支援してまいりました。

当クラブは今年で発足12年目に入りましたが、これまでに、ホンジュラスPJに405万円、大地震など緊急救援に225万円、地元も大事にしなければいけませんので、鎌倉市社会福祉協議会へ41万円、合計671万円を寄付させていただくことができました。ここまで来るにはいろいろ困難なこともありました。初代の代表が病気で引退したり、事務局長が事情で何人か代ったり、昨年は急逝されました。でも、良い仲間にも恵まれたこと、最初にきちんと組織を整えていたことが、何とか続けてこられた要因と思います。

さて、私供鎌倉クラブは、コンサートを中心に支援活動を続けてまいりましたが、今年は、9月18日の日曜日、場所は鎌倉芸術館で行います。今年のメインゲストは「ダ・カーポ」に決まりました。「結婚するって本当ですか」とか、「野に咲く花のように」「宗谷岬」といったヒット曲があります。とても爽やかな、きれいなハーモニーの感じのいいヴォーカルです。以前はご夫婦2人でしたが、今はお嬢さんが加わって3人で歌っておられます。このダ・カーポさんは以前からAMDAを支援してくださっており、ネパール子供病院の開所10周年の時にはわざわざ現地まで参加してくださいました。

茅ヶ崎中央ロータリークラブの皆様には、今年も何卒、9月18日に芸術館までお運びくださいますよう切にお願いいたします。

ここで、AMDA ボランティア活動の三原則をご紹介します。

- 1、だれでも他人の役に立ちたい気持があります。
- 2、この気持の前には国境、民族、宗教、文化等の壁はありません。

3、援助を受ける側にもプライドがあります。

以上三原則に、鎌倉クラブは前代表の提唱で、「自分自身の豊かな人生のために」を付け加えています。

私は「桜梅桃李（おうばいとうり）」という言葉が好きなのですが、桜、梅、桃、李、それぞれの美しさがあるように、人にはその人にしかない個性や役割、使命といったものがあります。

先程私は鎌倉クラブがここまで続いて来られたのは、組織のおかげが大きいと申しましたが、しかし組織だけでことが運び、進展するわけではありません。あくまで一人、一人の力によります。一人一人がそれぞれ個性を発揮して、最も得意なこと、好きなことで人の役に立つことができたなら、それがまさに「自分自身の豊かな人生」に繋がるのではないのでしょうか。

考えてみると、私は好きな箏を続けていたおかげで今があります。私から箏を取ったら何も残らないでしょう。ですから最後に箏を演奏させていただいて、今日のお話の締めくくりにしたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。